

地域の会 10/6 発電所訓練視察概要

日 時	平成28年10月6日(木)13時～16時30分
場 所	<p><概要説明 等> ○柏崎刈羽原子力発電所ビジターズハウス</p> <p><現地> ○構内 ・荒浜側高台緊急車両保管場所、防火帯など ○原子力防災訓練視察 ・サイトシミュレータ（事務本館内） ・緊急時対策所（免震重要棟内） ○免震重要棟視察 ・放射線防護設備 ・非常用物品庫 ○構内訓練視察 ・6号機原子炉建屋送水口接続訓練 ・自衛消防隊消火訓練</p>
参加者	<p>－委員－ （五十音順 敬称略） 池野、桑原、須田（年）、高桑、高橋（武）、高橋（優）、竹内 千原、中村・・・9名</p> <p>－東京電力－ 設楽所長、宮田原子力安全センター所長、須永副所長 佐藤リスクコミュニケーター 長原防災安全部長、青木運転管理担当 山田広報部地域共生総括グループマネージャー</p> <p>－事務局－ 柏崎原子力広報センター 石黒・坂田</p>
概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・原子力防災訓練（サイトシミュレータ、緊急時対策所等）を視察 ・構内の自衛消防隊消火訓練等を視察

視察風景



〈委員〉

「震度 6 強の地震発生、送電系統の不具合で外部電源喪失」をシナリオとする防災訓練の見学をメインとする視察でした。

地震発生時のサイトシュミレーターでの様子、緊急時対策本部での事故対応と自治体への情報連絡体制、自衛消防隊による放水訓練、を見学しました。

実際の場合には、余震もあるでしょう、もっと騒然とした事故対応となるのでは、訓練通りにいかない場面が多々起こるのではないかと思います。

繰り返しの訓練が落ち着いた事故対応に繋がる筈、事故想定を変えながら訓練を積んで欲しいと思いながら見せていただきました。

移動の車中も含め、見学中の説明に「福島事故を教訓に」のフレーズが繰り返され、一層の安全を求めて努力している様子が伝わってきました。

しかし、福島の現在も続く事故の影響を見ると、「これで安全、大丈夫」とはならない原発の持つ不安定さ、原発の安全確保の難しさを考えました。

内容の充実した視察ができたことに感謝しています。

今後も、福島事故について細部にわたる分析、検証を続け、柏崎刈羽原発の安全対策の多重化に努めて欲しいと思っています。

〈委員〉

緊急時の訓練について、初めて見学させていただきました。

まず実際のプラントと同じ操作盤等での訓練状況を視察しました。

運転員の緊張感と実際のシュチュエーションの状況を体験し、声のでないというか、相当なプレッシャーのかかる作業だなと感じました。

だからこそ、訓練の回数よりも内容の重要さ、および運転員の教育訓練が日頃より大事であり、訓練の重要性を再確認できました。

気になったことは、たまたまかもしれませんが、訓練は東電社員が中心で協力業者さんの参加している様子が確認できなかったことです。

万が一の事態にはオールスタッフで事故対応に取り組むのかもしれませんが、協力企業の方と一丸となって万が一に備えてほしいと思います。

最後に当日も感想を述べましたが、訓練の状況を視察し、自分の中の安心の度合いがより向上した感じをもちました。絶対の安全安心はありませんが、こういった地道な取り組みが地域の安心および信頼を得ることに大事なことではないかと思いました。

〈委員〉

10月6日柏崎刈羽原子力発電所の視察をさせていただきました。

私は所属部会で定期的に視察していますが、この一年で入場ゲートのチェックの仕様の変更や、以前はゲートをくぐると続くストレートの道が迂回をしなければ通れない様になるなど、様子が変わるので、今後も定期的な視察が必要なのだと感じています。

また今回は月に1回行われるという原子力防災訓練の様子や消防訓練など特別に見せていただけました。

結論から言うと東京電力の安全対策における本気度が伝わったと感じました。どの訓練にも緊張感があり、社員には使命感があるように見えました。また訓練の内容が事前に解からない為、より実践的です。この訓練の積み重ねが万が一の事故時に役立つことと思いますので、今後も継続的に行い精度

を上げていただければと思います。

そしてこの訓練の様子は一般の方にぜひ見てほしいと思いました。紙面などの情報だけでなく自分の目で見て感じてほしいと思います。

地域の会としましても現場を見るとというのは大事なことで今後とも活動していけたらと思いました。

〈委員〉

地域の会の会員として昨年初めて発電所内を視察し、今年も視察に参加させて頂き、とても貴重な機会となりました。丁寧な対応をして頂き、ありがとうございました。

ハード面では昨年はなかった新たな対策が追加されていて、より安全度を高めるように努めていることが分かりました。

また、今回は、原子炉の過酷事故を想定した総合訓練を視察。目に見えない人間が操作することが困難な核と向き合う、緊張感のある現場の空気を感じる事が出来ました。

この訓練の視察で、福島第一原子力発電所で 3.11 に過酷事故が起きた時は大混乱で大変だっただろうと想像し、とても恐ろしくなりました。その時現場にいた方々は今どうしているのだろうと、ふと心配になりました。心身ともに疲弊していることが想像されますが、健康で生活されていることを願うと同時に、その貴重な経験をぜひ後世に伝えていって欲しいと思います。

さらに、東電自前の消防隊による消火訓練も視察。飛行機が墜落したとの想定での消防車出動からの訓練を見て、日々体を張って訓練し続けている作業員の方の健康管理も心配になりました。原子力発電所というのは、本当に様々な人の苦労があって成り立っているのだということを感じました。

そして、原子力発電所は稼働していなくても使用済み核燃料を大量に保管している現状では、いつ何が起こるか分からず、安心できません。福島のような長期に渡る過酷事故が起きないように、今後もハード面もソフト面も対策をして頂きたいと願うとともに、環境汚染のない再生可能エネルギーへの転換を促進して欲しいと強く感じました。

〈委員〉

オンサイトでの原発の緊急時の事故対応は何と言っても原子炉の、「止める」「冷やす」「閉じ込める」ということにあるんだと思います。福島第一原発ではこの危機管理に失敗した経験から、福島第一原子力発電所の事故以降、58 回目の総合訓練だったわけですが、緊急時体制はあれだけの人的資源を投入しての訓練を目の当たりにすれば一定の評価はできると思います。ただただ圧倒されるだけでした。

訓練自体は重要であることには異論は持ちませんが、実際の事故が起きた時にはあんなにも冷静な対応ができるのだろうかという疑問・不安は払拭できません。その時に、原発敷地内において放射能が漏れていれば緊急時対応がスムーズに進行してゆくとはとても思えません。

「聖徳太子システム」が開発されて、緊急時対策本部の情報連携が構築されたのならオフサイトの OIL に瞬時に対応してゆかなければならないことになります。住民の立場に立てば放射能の危険からの被ばくを避けることにこの総合訓練や約 10,100 回行われたという個別訓練の成果が繋がることの方が重要な身近な関心事ではないかと思います。

いつまでたっても道半ばの事故対応や避難計画での柏崎刈羽原発の再稼働をどう受け止めようか……。最後に、バスの中で「賊」の侵入に備えて進入道路を曲げたとか。「賊」とはいったいぜんたい何なんですか！?!?。

〈委員〉

柏崎刈羽原子力発電所の視察は一年ぶりだったが、風景は道路を含めて大きく変わっていた。道路はテロ対策との説明であった。

ビジターズハウスでの説明の後、中央制御（訓練）施設で運転員の訓練を視察。あらかじめどこがトラブルになるかは知らされず訓練を開始、計器類を確認し報告、指示で復旧させる訓練は臨場感で圧倒された。

次に免震重要棟での訓練を視察。予想より大勢の人数で、所長等がいる場所は周りの声など支障とならないようにガラスで囲われた部屋になっていて、責任者のつぶやきやPCのデータも含め、すべて所長室で確認できるシステムは福島事故を教訓として改善したとの説明であった。

最後に自衛消防隊消火訓練を視察。最新の消防車で非常にきびきびした動きは訓練を重ねていると感じた。

今日の視察で安全対策も進んでいると感じたが、これらの訓練が現実とならぬようにより一層の安全対策を望む。

最後に議論を深めるには、机上だけでなく視察することにより見えてきたものも重要と再認識した。

〈委員〉

3年ぶりに構内に入ってみた。

主視察目的は原子力防災訓練であったが、その他安全に対する防災設備の充実に東京電力の並々ならぬ取り組みに、福島の教訓と原子力規制庁の方針が取り込まれているのに驚いた。3年前にはゲートを潜ると直線的に正面に日本海が見えていて発電設備にもすぐ行けた。この度は道路が迂回していて発電設備のテロ対策とのことである。防災設備も機能的に対応できる配置に工夫されていた。

いずれも福島の教訓と原子力規制庁の方針を最大限に受け入れ、発電所の安全対策に取り組んでいた。

事務本館内のサイトシミュレータと免震重要棟内の緊急時対策訓練は正に緊迫感があり所員一丸になって原子力防災に取り組んでいた。しかし原子力防災対策はこれでよいと言うことはない。

更に所員も設備も住民の安全安心を得られるよう進んでもらいたい。

〈委員〉

1. 東京電力の対応について
とても丁寧な対応に感謝している
2. 防災訓練について
サイトシミュレーションによる訓練では、どんな作業をしているのか理解することが出来ず私の知識不足を感じましたが、周りで立ち続けている人の役割は何だったんだろうか？本部の指示はどのように伝達されているのか？その割合に緊迫感に欠けたものだったように感じました。
3. 免震重要棟視察について
放射線防護施設については、説明に納得するばかりで質問する余裕はありませんでした。
非常用物品庫については、どれだけ用意しても大丈夫と言うことにはならないと思う。今現在の在庫状況を見せて戴き、3. 1 1の事故の時はどうな状況だった

のかも知りたい所であるが、多分安全神話の上に軽視されていたのでは無いかとも思っている。

4. 構内訓練視察について

送水口接続訓練は、スピードに欠けるように思えた。自営消防隊消化訓練においても消防署の訓練に比べ甘さを感じるものであった。

事故時点では、車での移動は困難な場合もあると思うので、マウンテンバイクでの移動も検討されてはどうかと思いました。

以上、雑駁な印象についてご報告申し上げます。